

みずほCustomer Desk Report 2018/06/01 号(As of 2018/05/31)

【昨日の市況概要】

【昨日の市況概要】				公示仲値	108.71
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	108.74	1.1665	126.83	1.3285	0.7571
SYD-NY High	109.00	1.1725	127.75	1.3348	0.7593
SYD-NY Low	108.39	1.1641	126.34	1.3279	0.7553
NY 5:00 PM	108.81	1.1692	127.30	1.3293	0.7569
NY DOW	24,415.84	▲ 251.94	日本2年債	-0.1500	0.00bp
NASDAQ	7,442.12	▲ 20.34	日本10年債	0.0300	0.00bp
S&P	2,705.27	▲ 18.74	米国2年債	2.4335	2.00bp
日経平均	22,201.82	183.30	米国5年債	2.6987	1.68bp
TOPIX	1,747.45	11.32	米国10年債	2.8595	0.36bp
ソコ日経先物	22,100.00	▲ 155.00	独10年債	0.3375	▲ 2.95bp
ロンドンFT	7,678.20	▲ 11.37	英10年債	1.2275	▲ 2.75bp
DAX	12,604.89	▲178.87	豪10年債	2.6520	2.05bp
ハンセン指数	30,468.56	411.77	USDJPY 1M Vol	7.60	▲0.43%
上海総合	3,095.47	54.03	USDJPY 3M Vol	7.78	▲0.20%
NY金	1,304.70	▲1.80	USDJPY 6M Vol	8.08	▲0.22%
WTI	67.04	▲ 1.17	USDJPY 1M 25RR	-1.13	Yen Call Over
CRB指数	202.84	▲ 0.45	EURJPY 3M Vol	9.70	▲0.48%
ドルインデックス	93.99	▲ 0.17	EURJPY 6M Vol	9.73	▲0.43%

東京	ユーロ相場が前日からの下げ幅を回復する動きに反トクフの巻き戻しとなる中で朝方のドル円は108.92まで上昇し、東京時間は108.74レベルでオープン。本邦勢による月末特有の必需フローが散見される中で108.55まで下落。その後も上昇し買い交錯する中で108.60-70付近で揉み合う展開。引けにかけては米金利が小幅上昇する中でドル円も東京時間高値となる108.85まで上昇し、結局108.75レベルで海外へ渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、108.75レベルでオープン。翌日に米5月雇用統計を控える中で方向感のない推移となる。一時109円ちょうどにタッチするも上値重く推移し108.86レベルでNYに渡った。ユーロは、1.1665レベルで始まるもユーロ圏の5月インフレ率が予想を上回ったことで、1.1725まで上昇するが程なく利益確定の動きが入ると売り買いが交錯し結局1.1708レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.3303レベルでオープン。朝方、5月の英住宅価格の伸びが鈍化したことで上値の重いスタートとなったが、ユーロが買い戻されるのにつられ1.3348まで買われる。1.3342レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	イタリアやスペインの政局不安は継続するものの、一旦過度な懸念が後退したことからユーロ円が買い戻される展開にドル円は下値をサポートされ、109円ちょうどまで戻し、108.86レベルでNYオープン。朝方は、米4月個人消費が予想を上回り、前回分も上方修正されたことから、ドル円は108.92まで戻す。しかし、翌日から米政府がEU、カナダ、メキシコに対して鉄鋼・アルミの関税を発動とのヘッダーに加え、スペインのライオ首相と友好関係にあるバスク国民党が改めて不信任案への賛成を発表し、首相の退陣がほぼ決定的になったこともあり円高回避の円買いが優勢となる。同材料に加えて米4月中古住宅販売件数が予想を下回ったことや、メキシコが米国に対して報復関税措置をとることを表明したこともあり、108.39まで下落。その後はイタリアのポピュリスト連立政権が、財務相候補に大統領が受け入れやすいような人物を検討しているとの報道を受け円売りが強まったことから、108.88まで上昇。その後はカナダも米国に対し報復関税を課すことを表明したことから、108.62まで反落する場面もあったものの、コロンビアがイタリア首相になることが発表されたことから、再び円売りが優勢となり、108.86まで戻し結局108.81レベルでクローズした。一方、買い戻しが続くユーロドルは、海外時間1.1725をつけ、1.1708レベルでNYオープン。朝方は米国のEUへの関税発動との報道に加え、スペイン首相退陣の思惑で1.1641まで反落する。その後は、イタリア政局不安が後退し1.1699まで戻し、1.1692レベルでクローズした。

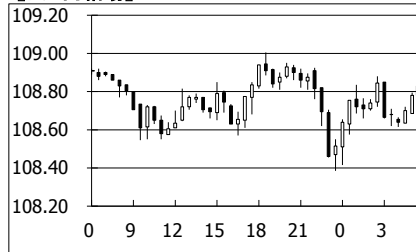
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
5月31日	10:00	中 PMI(製造業/非製造業)	5月 51.9/54.9	51.4/54.8
	21:30	米 個人所得/支出(前月比)	4月 0.3%/0.6%	0.3%/0.4%
	21:30	米 PCEコア(前月比/前年比)	4月 0.2%/1.8%	0.1%/1.8%
	21:30	米 新規失業保険申請件数	- 221k	228k
	22:45	米 シカゴ購買部協会景気指数	5月 62.7	58.3
6月1日	02:00	米 ブレイナードFRB理事講演「イタリア混迷は世界経済の脅威、FRBも注目」		

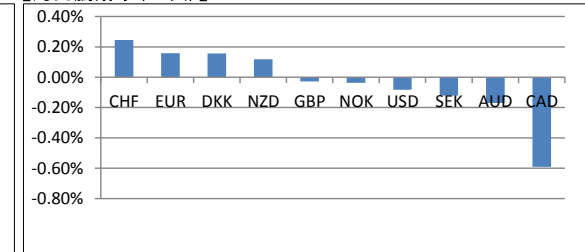
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
6月1日	09:30	米 カプラン・ダラス連銀総裁 講演	-	-
	21:30	米 非農業部門雇用者数変化	5月 190k	164k
	21:30	米 失業率	5月 3.9%	3.9%
	21:30	米 平均時給(前月比/前年比))	5月 0.2%/2.6%	0.1%/2.6%
	21:55	米 カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁 講演	-	-
	22:45	米 マークイット製造業PMI・確報	5月 56.6	56.6
	23:00	米 ISM製造業景況指数	5月 58.2	57.3

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	108.30－109.10	1.1630－1.1750	126.30－128.00

【マーケット・インプレッション】

昨日の海外市場でのドル/円相場は軟調な展開。政治混乱が続いていたイタリアではポピュリスト政党による連立政権樹立で合意に達したことで政治懸念は後退するも、トランプ米政権がEU、カナダ、メキシコへの鉄鋼・アルミ関税を発動すると発表。各国はこれに対し報復関税措置をとることを発表しており、米国株安・米金利低下につながり、ドル円も一時108円39銭まで下落していた。日本は米国時間に米雇用統計の発表が予定されているが、貿易懸念が拡大したことでセンチメントは悪化しており、ドル円は上値の重い展開となるだろう。また、昨日海外時間の株価の下落が本日の日本株にどのように影響するのか、その値動きにも注意したい。(福田)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更される可能性があります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさうようお願いいたします。また、当資料の著作権はすべて銀行にあり、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でご提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当：福田・鶴田